

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	文学部
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.2 教育課程・教育内容
小項目	6.2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
要素	必要な授業科目の開設状況 順次性のある授業科目の体系的配置 専門教育・教養教育の位置づけ(学部) コースワークとリサーチワークのバランス(院)
小項目	6.2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
要素	学士課程教育に相応しい教育内容の提供(学部) 初年次教育・高大連携に配慮した教育内容(学部) 専門分野の高度化に対応した教育内容の提供(院) 理論と実務との架橋を図る教育内容の提供(専院)

II. 自己点検・評価(2010.5.1~2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度~2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA~Dの4段階とし自ら評価した。A~D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 教育目標とディプロマ・ポリシーに基づき現行カリキュラムの個々の開設科目の内容を具体的に精査する。	→「文学部教育目標」、「文学部ディプロマ・ポリシー」(6-1に基づく)	C	C			
2. 専門科目と教養科目の関連性を再定義し、あわせて履修単位制限の厳格化を実施する。	→「新基本構想(教育)A-2」、「(教育)A-7」、「文学部開講科目一覧」、「文学部内規」	C	C			
3. 学部の開講授業総数を見直し、増加が必要な科目に関しては可能な限り対応する。	→「文学部および他学部の開講授業総数の推移」、「文学部授業受講者数推移」	C	C			
4. 学部における初年時教育内容の明確化と全学提供初年次教育との連携を検討するため委員会を設置し具体的検討を行う。	→「新基本構想(教育)A-2」、「人文演習開設数・受講者数」、「人文演習担当教員アンケート」	C	B			
5. 『文学部履修心得』をより利用しやすい形へと改善する。	→「文学部履修心得」、「文学部GPA分布」、「GPAと就職の相関関係」	B	B			

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目6.2.1	6.2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。 (説明) 2011年7月にディプロマ・ポリシーが作成され、その後、カリキュラム・ポリシーについての策定が行われるので、その結果を待って、体系的、具体的な見直しを行う。
☆ 小項目6.2.2	6.2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。 (説明) 専門科目と教養科目の関連性については、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーが確定した後、その方針に合わせて見直していくことになる。他方、履修単位制限の厳格化に関しては、原案がすでに策定され、2011年度の早い時期に実地させる予定である。
その他	文学部では、人文演習というアカデミック・スキルを教育する科目が置かれ、2つの外国語の履修も必修であり、専門研究への移行が容易になるようなカリキュラムとなっている。そのため特別に委員会を設置し、再検討をすることはしていない。履修心得に関しては、学生の履修作業を容易にするため、毎年改良を重ねている。

《評価指標データ》

MDSプログラム履修者の全学生に占める割合
 ジョイント・ディグリー制度への参加者の全学生に占める割合
 専門教育、教養教育、外国語教育、情報教育等ごとの開設授業科目数

★ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.2.1	
★小項目6.2.2	
その他	

《次年度に向けた方策(1)》伸長させるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.2.1	
★小項目6.2.2	
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.2.1	
★小項目6.2.2	
その他	

《次年度に向けた方策(2)》改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.2.1	
★小項目6.2.2	
その他	

◎自由記述

《点検・評価》&《次年度に向けた方策》

★その他 (自由記述)	
----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

＜評価専門委員会の評価＞

【学外委員】

- ポリシーの確定待ちで、あまり具体的な進展は見られないようです。
- 「現状の説明」6.2.2の履修単位数の上限設定の問題は、次項6.3.1に移すのが適切です。

【学内委員】

- ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーに基づく具体的教育内容・方法の提示が求められます。また、第4学年度生の履修単位数制限が60単位(30単位+30単位)となっており、履修単位数制限の厳格化を実施するという点に関する進捗評価が相変わらずCですが、それを早急に改善する必要があります。
- 学部全体のDP、CPが出来たので、それに基づいた各学科のDP、CPを検討し、整理されることが期待されます。
- ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの策定が待たれるところですが、要素などを参考にされ、現状についての記述が欲しいところです。
- 履修単位数制限と履修心得に関しては、「6.3教育方法」での内容かと思います。

○昨年度の次のコメントは本年度もそのままコメントとします。

- ・授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成するためには、2009年度に設定された目標の達成が不可欠です。しかし、いずれの目標に関しても進捗度が低いようなので、今後の努力が期待されます。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

○小項目6.2.1

基盤評価：「【学士】当該学部の教育における教養教育、専門教育の位置づけを明らかにしていること」「【修士・博士】当該研究科等の教育におけるコースワーク、リサーチワークの位置づけを明らかにしていること」「【専門職】当該研究科等の教育における理論教育、実務教育の位置づけを明らかにしていること」

達成度評価：「当該学部・研究科の教育課程の編成・実施方針に従い、学生に期待する学習成果の修得につながる教育課程となっている」（評価に当たっては、当該大学の説明・証明から、下記のことが明らかであるかに留意する。）

- ・方針と教育課程の編成・実施実態の整合性
- ・学生の順次的・体系的な履修への配慮
- ・各学位課程の固有の課題に応える措置（例えば、学士課程においては、初年次教育・高大連携への配慮など）

IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

《現状の説明》小項目6.2.1の説明箇所を以下のように変更する。

2011年度にディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの策定をし、そこで現状の授業科目の体系に問題点が見つかれば、その改善を図ることになる。しかし、現状ではとりたてて問題点があるとは言えず、とりたてて変更をする必要性はないと考えられる。

★小項目6.2.2の説明箇所を以下のように変更する。

1年生が導入期、2年生が専門への準備期、3年生で専門の勉強、4年生で卒業論文を書くことで研究の完成と明確に方針が決められており、それに則した授業が設置されている。今後の課題は、学生の達成度を確認するための方法を確立することにある。